

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称：株式会社マスネットワーク	所在地：長野県松本市巾上 13-6
評価実施期間：平成 28 年 7 月 1 日から平成 28 年 12 月 12 日	
評価調査者 060802 060792 060773 050231	

### 2 福祉サービス事業者情報（平成 28 年 7 月現在）

事業所名： （施設名）訪問看護ステーションやまなみ	種別：訪問看護ステーション
代表者氏名： 代表理事理事長 社浦 康三 （管理者氏名）管理者 桜井 富美子	定員（利用人数）：189 名
設置主体：長野県厚生農業協同組合連合会 経営主体：鹿教湯三才山リハビリテーションセンター	開設（指定）年月日： 平成 6 年 8 月 1 日
所在地：〒386-0401 長野県上田市塩川 1333	
電話番号：0268-34-7002	FAX 番号：0268-34-7003
ホームページアドレス： <a href="http://km-rehacenter.jp/">http://km-rehacenter.jp/</a>	
職員数	常勤職員： 13 名 非常勤職員 27 名
専門職員	（専門職の名称） 理学療法士 13 名
	看護師 20 名 作業療法士 14 名
	言語聴覚士 3 名
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等） 事務室、面接室 タブレット、訪問車

### 3 理念・基本方針

理念 「私たちは保険、医療、リハビリテーションおよび福祉活動を通じて高齢者・障害者が自分らしく生き生きと輝いて暮せるように、地域のみなさまとともに支援いたします。
基本方針 1. 人権を尊重し、常に利用者の立場に立った看護、リハビリの提供をします。 2. 質の高い看護、リハビリを適切かつ安全に提供します。 3. 多様なニーズに応えられるよう、地域の医療、保険、福祉サービスと協働します。 4. 地域社会において評価されるよう自己研鑽に努めます。

### 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

私たちは、在宅療養者と、その家族及び地域住民に適切な看護、リハビリテーションサービスが利用できるように支援し、20年間の在宅支援の経験から生活の質の向上を図るための活動をしてきました。 鹿教湯病院との連携にて脳血管障害、神経難病、障害者福祉の実践と経験を活かし
---

その人らしい生活がいきいきと送れるように、本人の望む外出支援などの活動もリハビリスタッフと積極的にしてきた経過があります。

最近では、在宅療養支援診療所との看取りのケースが増えてきて、最期まで生き切るための在宅支援も24時間体制で行えるように、エリアの広いステーションとしてスタッフの充実も図っています。

また、開設当社からJAの福祉活動、助け合いの会との協働の精神は現在のJA婦人部との交流にもつながり、地域包括ケアを勧める上でグループホームや地域サービスとの協働、認知症の出前講座、寸劇などの活動に発展しています。

## 5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回初受審
---------------	-------

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

特に良いと思う点

### 1 < 利用者の思い、在宅生活者に寄り添った支援 >

長野県厚生連の理念、鹿教湯病院の理念から訪問看護ステーションの基本方針が職員にしっかり理解され、訪問看護として自分達が何を行うかを明確にし行動に移し、利用者の看護にあたっている。鹿教湯病院の地域医療部として組織化され、訪問看護ステーションの2か所が目指す方向を「利用者が障害や疾病を抱えても自宅で生活する支援、その人がしたい事にどのように寄り添えるか」を常に考えサービスに努める姿勢が職員のすべてから感じ取ることができる。

専門職である前に人としての優しさと利用者の生活に寄り添った支援、専門職としての相談しやすさや適切な対応は、利用者や利用者家族が安心して在宅を継続できる大きな源になっている。

### 2 < 地域に根差した地域との関係づくり >

JA長野厚生連は地域に根差した医療活動を展開し「地域の住民と共に」を大切に活動している。訪問看護ステーションやまなみも担当地域の中でJA組織の繋がりも強くその活動には「安心できる質の高い技術、分かり易い説明」「人柄、優しさ」等々利用者の信頼を寄せる賞賛の声が聞かれる。

厚生連中・長期計画にも大きな柱として示されている「地域ぐるみの健康管理活動を積極的に展開する」に、基づき将来を見据えた地域包括ケアシステムに向け地域にニーズを把握し、より在宅医療や介護福祉事業との協力のもと効果的な質の高い医療、介護提供体制が始まっている。

病院祭、JA祭等、地域の利用者、家族の参加や「地域の寄り合い、公民館、自治会への出席、他職種勉強会への出席や在宅医療・介護を考える会の出席等により、資源マップを作成する」等、地域との関わりを積極的に行い、地域づくりへの一端を担う関係づくりに努めている。

### 3 < 他職種連携や職員間のコミュニケーションが良好 >

訪問看護ステーションには訪問リハビリ職員、併設に居宅介護支援事業所があるために相談しやすい環境にある。訪問リハビリの職員から訪問看護の必要な利用者の相談があり訪問につながることもある。また、職員は訪問看護の理念、方針をしっかりと

理解し在宅を支援する訪問看護として利用者への対応や支援について相談しやすい環境が整っている。

#### 4 < IT 化による業務の効率化 >

訪問看護ステーションは、常に利用者のいる在宅での支援が重要な役割である。多くの利用者を在宅で支援する中で必要な利用者の医療情報をモバイル利用により、医師に伝え、正しい情報や画像が早急に伝えられることで利用者の安心したケアにスムーズな流れができてきている。また、モバイル利用により、専門職が情報共有しやすい環境整備が行われ 24 時間対応の訪問看護には、利用者、家族を担う大きな力となり、家族、利用者にとっても更なる安心に繋がっている。

特に改善する必要があると思う点

#### 1 < アセスメント工夫による医療、生活の視点からのチーム支援 >

初回アセスメントでは、利用者家族に対してのアセスメントも行い、居宅サービス計画書に基づいた訪問看護計画書が作成されている。今後、訪問看護の地域での役割は大きく生命を維持するためのアセスメント、生活を維持するためのアセスメントから課題領域を明らかにした記録を定期的に行い、更なる生活向上に向けたチーム支援に期待したい。

#### 2 < 災害時のトリアージ >

災害時の利用者安全の取り組みとして、家族と協力してトリアージに取り組み、人口呼吸器装着者と地域の消防署との連携も出来た。在宅サービスを受けている利用者は地域の民生委員や福祉との関わりも深く、そのような中で地域を訪問している医療機関が、災害時にどのような役割が行えるか、また、トリアージ分類を利用した災害時の避難等積極的に活用する取り組みなどにも今後期待したい。

#### 7 事業評価の結果（詳細）と講評

評価対象 1 及び評価対象（別添 1）

評価対象（別添 2）

#### 8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添 3 - 1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）

平成28年12月28日記載

当事業者は「保健、医療、リハビリテーション及び福祉活動を通じて高齢者、障害者が自分らしく生き生きと輝いて暮らせるように地域の皆様と共に支援していきたい。」鹿教湯病院の理念の下、平成6年に開設し20年余り経過しました。その間市内に1か所、松本に1か所の訪問看護ステーションを開設し、その後2か所をサテライト化するなど、組織体制の強化に努めてきました。一方、サービスの質の向上、人事管理・育成など多くの課題も抱えていました。特に訪問看護事業所運営などの組織的な取り組みは不十分でした。

今回 第三者評価を受審し、その着眼点を指導いただく中で、訪問看護の組織運営の重要なポイントが見えてきました。特に利用者目線からの調査項目は事業所運営において多くの学びがありました。利用者アンケートについては、自施設の満足度調査では得られないご意見をたくさんいただくことができました。職員に喜びと共に感謝の気持ちさえもたせていただくことができ、さらなる改善に向けての大変貴重なご意見をいただきました。

今回の受審に際し職員が同じ気持ちで団結し自分たちの組織強化のための研修、業務マニュアル、手順、基準マニュアルの再確認をし、チームの力をつけられたことが最大の成果であったと感じています。今後は、災害時マニュアルのトリアージ分類を利用者の安心・安全な環境づくりのために有効活用し、さらに地域の関連機関との連携にまで広げることができるように努めたいと思います。

リハビリテーション病院の訪問看護ステーションとして利用者の生活に視点をおいてアセスメントし、住み慣れた地域で生活者としてできるだけ長く過ごすことへの支援を自分たちの強みとし、ICT化に進め地域の皆様と協働していきたいと思っております。